

## ごあいさつ

このたび山口県立美術館の館長に就任いたしました二井関成です。あわせて山口県立萩美術館・浦上記念館の館長も務めることとなりました。どうぞよろしくお願いたします。

さて、当館は昭和54(1979)年に開館し、郷土色豊かな美術館と県民の参加する開かれた美術館をめざして活動してまいりました。その34年におよぶ活動のなかで当館が開催した展覧会をご覧になった方々は、総計で595万人を超える数となりました。

また、平成23(2011)年度には、開館以降の社会情勢やライフスタイルの変化に対応するために、大がかりな改修工事を行ったところです。新しく生まれ変わった美術館を最大限に生かし、今まで以上に親しみと魅力を感じていただけるような活動を展開してゆく所存です。

平成25年度最初に開催する特別展は、「生誕100年 松田正平展」です。独特の画風で多くのファンをもつ洋画家松田正平の画業を101点の油彩画で紹介するものです。また、夏にかけての時期には、フランスのナント美術館の名品を紹介する展覧会を開催いたします。

今年度も1年を通じて魅力ある展覧会のラインナップを組んでおりますので、どうぞご期待下さい。



山口県立美術館長 二井 関成

平成25年4月1日

## お知らせ 第67回山口県美術展覧会の開催について

次回第67回山口県美術展覧会は、2014年3月13日(木)～30日(日)での開催を予定しています。開催要項等の詳細は7月頃の発表を予定しています。

# 2013 - 2014 schedule

山口県立美術館 平成25年度年間スケジュール

	展示室 A	展示室 B	展示室 C	展示室 D	展示室 E	展示室 F
<b>4</b>	4/11(木)～6/2(日) 白と黒の世界	4/11(木)～6/2(日) 修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズI 香月が見た戦争	4/11(木)～5/6(月・祝) 雪舟と雲谷派1 長州雪舟流開祖 雲谷等顔 5/8(水)～6/2(日) 色でみる日本美術	4/11(木)～5/26(日) 特別展 生誕100年 松田正平展 悠久の周防灘		休館(4/8～4/10)
<b>5</b>						
<b>6</b>	6/4(火)～8/4(日) 「小ささ」のかたちと意味	6/4(火)～8/4(日) 修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズII 終戦-抑留生活のはじまり	6/4(火)～7/7(日) 雪舟と雲谷派2 雪舟四代 雲谷等益 7/9(火)～8/4(日) 雪舟と雲谷派3 兄弟画家 等與と等爾	6/4(火)～7/7(日) 特別展 ナント美術館名品展 -フランス近代美術の輝き-		
<b>7</b>						
<b>8</b>	8/6(火)～9/29(日) 東松照明と戦後日本写真	8/6(火)～9/29(日) 修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズIII シベリアの冬-セーヤ収容所	8/6(火)～9/1(日) 雪舟と雲谷派4 元禄時代の雪舟流 9/3(火)～9/29(日) 南画のこころ	8/8(木)～9/16(月・祝) 特別展 没後50年 松林桂月展 -水墨を極め、画中に詠う-		
<b>9</b>						
<b>10</b>	10/1(火)～12/1(日) スピリチュアルな世界	10/1(火)～12/1(日) 修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズIV 郷愁-チェルノゴルスク収容所	10/1(火)～10/27(日) 山口の幕末絵師 狩野芳崖 10/29(火)～12/1(日) 雪舟と雲谷派5 雪舟	10/10(木)～12/8(日) 特別展 没後150年 狩野一信 五百羅漢図展		
<b>11</b>						
<b>12</b>	12/3(火)～1/26(日) 福田勝治のモダニズム	12/3(火)～1/26(日) 修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズV 日本海をめざして	1/2(木)～1/26(日) めでたづくし 1/21(火)～1/26(日) 第66回山口県立学校美術展覧会 1/29(木)～2/2(日) 山口県立大学卒業制作展 2/6(木)～2/9(日) 山口芸術短期大学卒業制作展 2/13(木)～2/16(日) 山口大学教育学部美術教育卒業・修了制作展	1/2(木)～2/16(日) 澄川喜一と植木茂		休館(12/24～1/1)
<b>1</b>						
<b>2</b>	1/28(火)～4/6(日) 牛腸茂雄 SELF AND OTHERS	1/28(火)～4/6(日) 修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズVI (私の)シベリア	1/28(火)～2/20(木) 日本美術のことば(前編) 2/27(木)～4/6(日) 日本美術のことば(後編)			休館(2/21～2/26)
<b>3</b>				3/13(木)～3/30(日) 第67回山口県美術展覧会		

### Information

#### ■休館日

月曜日(月曜日が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館。)  
※ただし、4月30日(火)は開館。

#### ■展示期間

4月8日(月)～4月10日(水)、12月24日(火)～2014年1月1日(水・祝)、  
2月21日(金)～26日(水)

#### ■開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで)

#### ■料金

コレクション展: 一般300(240)円 学生200(160)円  
※( )内は20名以上の団体料金。  
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。

特別展: 別途定めた料金



山口県立美術館  
Yamaguchi Prefectural Art Museum  
〒753-0089 山口市龜山町3-1  
TEL:083-925-7788 FAX:083-925-7790  
http://www.yma-web.jp/

Yamaguchi Prefectural Art Museum

# 119

### Contents

コレクション展

#### 特別展

生誕100年 松田正平展 悠久の周防灘

ナント美術館名品展 -フランス近代美術の輝き-

没後50年松林桂月展 -水墨を極め、画中に詠う-

ごあいさつ

年間スケジュール

山口県立美術館ニュース「天花」

# 天花

TENGE



《子狐登場》 植田正治 1948年 山口県立美術館蔵

## コレクション展

# 白と黒の世界

4/11 木 - 6/2 日

### 表紙作品解説

《子狐登場》 植田正治 1948年 山口県立美術館蔵

モノクロームの風景の中に浮かび上がる白い狐の面。地面を低く、空の面積を広く取った画面構成のおかげで、ぴよんと飛び上がった子狐の動作が印象強く目に飛び込んできます。男の子の坊主刈りに半ズボンの制服という服装も素朴で、まさにかわいいいたずら子狐といった感じです。

明暗だけで表現される白黒写真の世界は、色がないという制約を超えて、時にとても豊かな世界を作り出します。この作品も白から黒へと移る微妙な濃淡が、昼の世界から夜の世界へと移る黄昏時や、この世とあの世が交わる不思議な世界のイメージと重なり、私たちの想像をかき立てます。

この写真の作者は植田正治(1913-2000)。鳥取県境港市に生まれ、生涯山陰で作品を発表し続けました。《子狐登場》の舞台も、自宅(鳥取県米子市)近くの海岸でした。モデルは彼の息子です。お面をつけさせて「飛べ」の号令で撮ったのだとか。撮影されたのは戦後ようやく落ち着いた昭和23年。フィルムも手に入らなかった戦争が終わり、ようやく自分の思うように撮れるという喜びの中で生まれた作品です。

今年は植田正治の生誕100年という記念の年です。コレクション展「白と黒の世界」では、植田正治の作品を含む、白と黒が織りなす不思議な世界をお楽しみいただけます。同時期に、修復が完了した香月泰男のシベリア・シリーズ全作品を年6回に分けて紹介する年間企画(第1期は4/11-6/1)、山口ゆかりの雪舟と雲谷派を取り上げた5回シリーズのうち「長州雪舟流開祖 雲谷等顔」(4/11-5/6)、「色でみる日本美術」(5/8-6/2)を開催していますので、併せてお楽しみください。

(当館学芸員 前田 淳子)

Collection

山口県立美術館ニュース「天花」第119号 平成25年4月発行

編集 指定管理者サントルーベリウチナーویه株式会社 発行 山口県立美術館 印刷 阿部社写真印刷株式会社



特別展

# 生誕100年 松田正平展 悠久の周防灘

2013年4月11日(木)～5月26日(日)



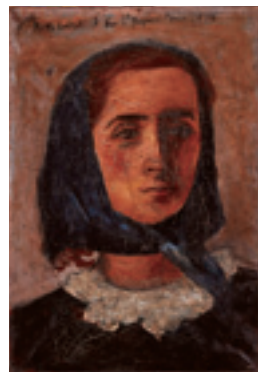
《周防灘》1985年 個人蔵

## 「祝島を描きだしてもう三十何年経つ、 いまだによく描けんけどね。」

幼少期を宇部で過ごし、東京美術学校(現在の東京藝術大学)卒業後、第二次世界大戦前夜のパリで研鑽を積んだ松田正平(1913-2004年)。戦後、独自の表現を模索しながら画風を変えていった松田は、愛犬や手塩にかけて育てたバラなど身近なモチーフを繰り返し描きました。なかでも瀬戸内海に浮かぶ祝島とその穏やかな海を描いた周防灘シリーズは松田正平の代名詞となり、晩年には透明感のある独特の画境に到達します。このたびの展覧会では、画家の生誕100年を記念して、初期から最晩年までの油彩画101点をご覧ください。飄々としたなかにも厳しさをのぞかせる人柄そのままの、おおらかでほのぼのとした詩情豊かな松田正平の世界を存分にご堪能ください。

## 1 油絵との出会い

東京美術学校卒業後、パリに渡った松田正平。ルーヴル美術館でコロの代表作を模写するなど、西洋美術の古典に多くを学びます。パリで出会った本格的な油絵は画家・松田正平の出発点となりました。



《ネル・コレ》1939年 個人蔵

## 2 絵の具との格闘

パリから帰国後、松田正平は油彩による表現の可能性を探求していきます。カンヴァスに刻み込まれた神経質な線描と圧倒的な存在感を示す厚い絵の具の塊は、素材と格闘する画家の姿を感じさせます。



《燈台》1959年 山口県信用農業協同組合連合会蔵

## 3 美しい絵はだをもとめて

やがて松田正平の絵はそれまでの力強い表現から、くり返し薄い絵の具を塗っては削る繊細な表現へと変わっていきました。ひたすら美しい絵はだ(マチエール)をもとめて描き継がれた作品は、宝石のような美しさを湛えています。



《NC嬢》1977年 個人蔵

## 4 犬馬難鬼魅易 (ケンバハカタクキミハヤスシ)

愛情溢れる眼差しで身近なモチーフを見つめ、柔らかな色彩で描いた松田正平。ユーモアたっぷりの愛犬ハチやお気に入りのバラ、パリの思い出香る洋梨が、四角いカンヴァスのなかで愛らしい表情を見せています。



《四国犬》1979年 山口県立美術館蔵

## 5 悠久の周防灘

松田正平が半世紀にわたって通いつづけた祝島。瀬戸内海に浮かぶこの小さな島で、画家は繰り返し周防灘の風景を描きました。飄々とした線と透明感あふれる色彩が織りなす画面には、柔らかな光を水面に映す悠久の周防灘が広がっています。



《周防灘(祝島)》1980年 山口県立美術館蔵

特別展

# ナント美術館名品展

～フランス近代美術の輝き～

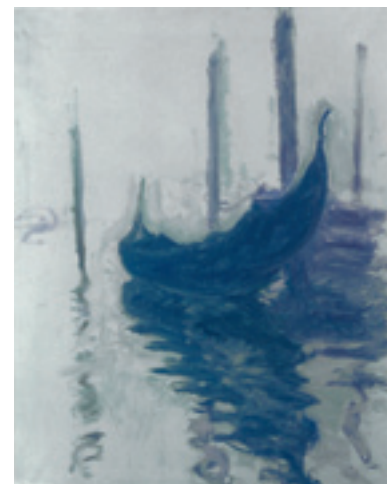
6月4日(火)～7月7日(日)

フランス西部のロワール川河畔に位置し、「フランス西部のヴェネチア」と称される古都、ナント。現在では緑豊かな文化都市として人気があるナント市の文化の中心となるのがナント美術館です。伝統あるナント美術館の豊かなコレクションから、フランス美術が最も輝いた時代の絵画をご紹介します。

この展覧会でご覧いただく19世紀から20世紀は、さまざまな絵画表現が生まれた時代です。卓越した絵画テクニックに裏付けられたドラローシュらアカデミーの人気画家たち。カミーユ・コロエをはじめとする牧歌的な風景画。優雅なドレスを身にまとった婦人たちの肖像画。シスレーやモネが描いた光のきらめき。新しい絵画表現を生み出したピカソ。パステルカラーの甘い色調の女性像が魅力のローランサン。これらの画家たちによる魅力あふれるフランス絵画の精華を約60点の作品でご堪能ください。



ポール・ドラローシュ  
《ピコ・デ・ラ・ミランドラの幼少期》  
1842年



クロード・モネ  
《ヴェネチアのゴンドラ》  
1908年

- 休館日：月曜日
- 観覧料：一般900(700)円、シニア・学生700(500)円  
※シニアは70歳以上の方。( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。  
※18歳以下および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。
- 主催：山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送
- 後援：フランス大使館
- 協力：エールフランス航空
- 企画協力：ホワイトインターナショナル

特別展

# 没後50年 松林桂月展

—水墨を極め、画中に詠う—

8月8日(木)～9月16日(月・祝)

萩出身の画家、松林桂月(1876-1963)は、明治・大正・昭和の三代を生き、数々の名作を残した近代日本画の巨匠です。伝統的日本画のたしかな技術を基礎としながら、新たな表現にも意欲的であった桂月の作品は早くから高く評価され、明治後期から晩年までの長きにわたって、日本画壇を代表する画家のひとりとして活躍しました。この展覧会は、近代日本画の歴史に巨大な足跡を残した桂月の豊かな芸術世界をご紹介します。



松林桂月 《雨後》 昭和30年 個人蔵



松林桂月 《愛吾廬》 昭和11年 山口県立美術館蔵

■休館日：月曜日 ※ただし、9月16日(月・祝)は開館